

福島県男女共生センター図書室だより

第 84 号  
2022. 3. 20

ライブラリー

# 散 歩 道

今月のテーマ

未来館20周年記念

— 新たな時代に向けて —



## 「輝いて Working3—ジャーナリスト 下村満子—」

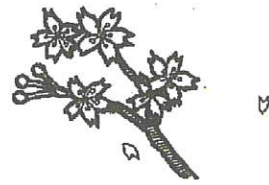
インタビューアー伊地知裕子 作品社

2022年1、2月の共生センター図書室の特集テーマは「新たな時代を切り拓いた女性たち」とありました。当センター初代館長さんである下村満子さんについてもっと知りたいとの思いがありました。この本はインタビュー形式の書でフリーの編集者兼ライターである伊地知裕子さんの質問に答える形で進んでいます。

下村さんがジャーナリストとなる前の満州引き揚げから国際的な活躍をするもととなったアメリカ留学への導入の部分、冒険的な行動力にどんどん引き込まれていきます。週刊朝日の記者としての活動的で魅力的な対談も多く、ジャーナリストとしてどちらかに偏ってしまう報道ではなく、誠実と情熱を持って接していると言っています。

そんな多忙な日常の中で鎌倉のある禅寺で坐る一枚の写真がとても印象的です。

(I. M.)



## 「おとこのるつぽ」

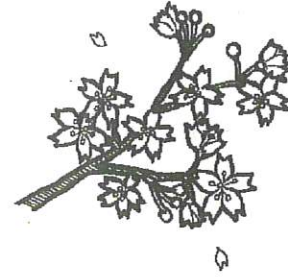
群ようこ 新潮社

「るつぽ」という言葉にひかれて手にしたエッセイ集です。「人種のるつぽ」という使われ方をイメージしながら、どんな交流が繰り広げられるのか期待して読み進めました。

著者は、小学校時代から中年期に至るまで、日常生活のエピソードに登場する男性たちの赤裸々な情けない生き様を容赦なく書き綴ります。出会った男性たちへの観察力と心理的考察には驚かされました。男性社会の中で、多種多様な場面で繰り広げられる男性と女性の関わり、著者が伝えたいことは何？という心境で最後の章までたどり着きました。この章で反撃した若い女性の一言と微笑みは、品格を保つ大人の人権尊重を伝えていました。

こんな社会的背景の中から、男女雇用機会均等法の改正や男女共同参画社会基本法が制定・施行されて、今日に至っているのかもしれないと、改めて考えさせられた著書でした。

(S. S.)



## 「おひとりさまのケチじょうず シンプルに美しく暮らす」

小笠原洋子 ビジネス社

著者は、できるだけ自由に生きていきたいという思いがあり45歳でリタイアしました。その後アルバイトをしながらの生活でしたので、「無駄遣いをしない節約生活」を続けたのです。いざ65歳から年金生活が始まるという時に、年金受給額を計算してその低さに大変驚きつつ、年金だけの生活が始まりました。このような経験をした人は、私以外にも少なからずいるのではないのでしょうか。著者は好んでケチになったわけではなく、必要にせまられながらも、そのケチを日々工夫しながら楽しく豊かな気持ちで過ごしました。その工夫を紹介しているので、とても身近に感じることばかりです。

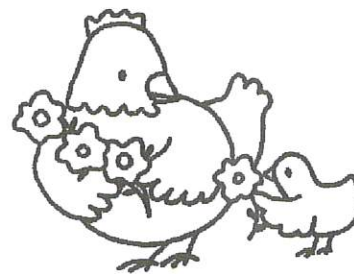
「何が豊かなのか、判断基準はひとそれぞれです。」とも言っています。工夫を重ね自分ならではのさまざまな生活術を生み出すのがとても楽しいのかもしれません。

最近耳にする「終活」「断捨離」は、彼女のシンプルライフそのもののような気がします。片付けが気持ちいいのは、部屋がきれいになるだけではなく、無くした物を発見できたり、要らないものに気付くからなのかもしれません。

また、洋服をはじめ、物を大切に使い続けることは、今注目されている「持続可能な社会」と繋がっているのではないかと思います。

著者が提言している「地球に優しい倹約生活、ケチカロジーを始めましょう」を、私たちも生活に取り入れてみませんか。

(T. Y.)



## 「旅といっしょに生きてきた 人生を楽しむヒント」

橋田壽賀子 祥伝社

コロナ禍の中、なかなか旅に出ることもままならずにいます。今までの旅を振り返り、思い出に浸っていた時に会った著書でした。

著者は、国民的脚本家として有名な方です。中でもNHK連続テレビ小説「おしん」は、日本のみならず海外でも放送されたテレビドラマでした。この世界的なブームを引き起こした作品も旅の記憶がヒントになっていたそうです。著者は、終戦後、山形に身を寄せ心身ともに生きる力を頂きます。その時に、地元の人から聞いた「昔は奉公に出る子どもは、舟ではなく筏に寄せられて最上川を下って行った」という話が心に残り、再び山形を旅することにします。この時から、何かを知りたいという好奇心に突き動かされる旅が始まります。著者の人生は旅で彩られ、旅のヒントを作品に活かすエネルギーな姿は、閉塞感に囚われがちな心に元気を頂ける一冊です。

(S. S.)

## 「尾畠春夫 魂の生き方」

尾畠春夫 聞き手・構成 松下幸 南々社編集部 南々社

本書は、南々社編集部松下幸さんが30時間かけて尾畠春夫さんに聞き取りを行い書きあげたものです。本書ではボランティア活動のこだわりと意思について熱く語ってありますが、「人生って素晴らしい〜」「一歩外に出てみませんか、そうすれば家の中とは違う空気を味わえて、違う考えも浮かんできます、そう思えるようになります」という事を伝えたかったと思います。

コロナ禍の中、尾畠さんの命のことばかりは、生き方を見失いがちな人たちにとって、勇気と励ましになる言葉がつづられています。

誰もが同じことを出来る訳ではないのですが、せめてその考えから多くを学びたいと思いました。

自分のボランティア20年を振り返り、あまりにも違っていましたがそれでも、共感・共鳴する事があったり、感慨深く読ませて頂きました。これからも「人生って素晴らしい〜」と思えるような明日を探していきたいと勇気を頂けた一冊でした。

(K. M.)

# ☆図書室から本の紹介をします☆

| 番号 | 書名                                 | 著者名     | 出版社      | 分類      |
|----|------------------------------------|---------|----------|---------|
| 1  | 新型コロナと貧困女子                         | 中村淳彦    | 宝島社      | 1101 ナ  |
| 2  | サザエさんと長谷川町子                        | 工藤美代子   | 幻冬舎      | 1203 ク  |
| 3  | 兵器を買わされる日本                         | 東京新聞社会部 | 文藝春秋     | 2108 ト  |
| 4  | 苦しい時は電話して                          | 坂口恭平    | 講談社      | 2110 サ  |
| 5  | 消えたママ友                             | 野原広子    | KADOKAWA | 3206 ノ  |
| 6  | 「死ぬんじゃねーぞ!!」<br>いじめられている君はゼッタイ悪くない | 中川翔子    | 文藝春秋     | 3212 ナ  |
| 7  | おひとりさまのケチじょうず<br>シンプルに美しく暮らす       | 小笠原洋子   | ビジネス社    | 4201 オ  |
| 8  | 家族写真 3・11 原発事故と忘れられた津波             | 笠井千晶    | 小学館      | S4207 カ |
| 9  | いのちを救う災害時医療                        | 森村尚登    | 河出書房新社   | S5104 エ |
| 10 | 夜はおしまい                             | 島本理生    | 講談社      | 6102 シ  |

## 利用ガイド

### ◎利用時間

9:00~20:00

(休館日前日 9:00~17:00)

### ◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話

の使用はご遠慮ください。

## 編集後記

今年も散歩道ボランティアが始まりました。

コロナ禍(オミクロン)で大変な時代の中、ロシアがウクライナに侵攻し戦争がはじまったことに大変驚いています。

ウクライナの人々のことを思うと胸が締め付けられてしまいます。

今、世界はSDGsの目標達成を目指し、ひとりひとりが頑張っている時です。目標の一つに貧困をなくそうがあります、是非達成できるよう、まず戦争を無くし、平和になるよう心から願っています。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成グループ

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)